

入選

本当の「親切」

奈良県 桜井中学校 3年 弓場 香奈

私が中学生になって初めての夏、仲のよい友達とプールに行くことにしました。そのプールは、朝早くから並ばないと入れないので、私も友達も急いでいました。

電車が駅に着いて走り出したとき、私は大きな荷物をかかえてウロウロしているおばあさんを見かけました。駅名が書いてある表などを何度も見て、すごく困ってそうでした。友達は先に走って行って、プールに行くためのバスに並んでいました。私もすぐ行こうとしましたが、どうしてもあのおばあさんが気になってしまい、友達に話して、いっしょにおばあさんに声をかけることにしました。

正直いって、二人とも不安で、もしかしたら迷惑になるかも知れないと思いましたが、

「大丈夫ですか。」

「どうされたんですか。」

と声をかけました。するとそのおばあさんは、とても喜んでくださいました。やはり、駅で迷ってしまったと言っていました。

おばあさんは、他県の娘さんの家にとまりに行くと言っていらっしゃって、

「もう行けないと思っていたから、本当にありがとう。」

と、なんどもなんどもお礼を言ってくださいました。私と友達は、結局バスが行ってしまって、プールに入ることができませんでした。私は、友達にすごく申し訳ない気持ちでした。二人で初めて遊ぶ日だったし、時間をむだにさせてしまった、そんな気持ちでいっぱいでした。

でも、友達は、

「全然むだな時間じゃなかったし、あのおばあさんが喜んでくれてよかった。それに、香奈のいいところが知れてよかった。」

と言ってくれました。私はこのとき、「人に親切にするのはいいことだ」という言葉の本当の意味がわかったような気がしました。親切をすることは、まったくめんどうでもなく、逆に自分に思いやりの大切さや、人との関わりの楽しさをわからせてくれるものだと思います。

中学3年生になった今も、電車に乗っているとあのおばあさんのうれしそうな顔を思い出して、私も笑顔になります。私はこれからも、あの体験を思い出して、人を笑顔にしていきたいと思いました。